

菅平生き物通信



発行者／筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 〒386-2204長野県上田市菅平高原1278-294
☎0268-74-2002 FAX 0268-74-2016
https://www.msc.tsukuba.ac.jp/ ✉ikimono_srs@un.tsukuba.ac.jp 第94号 2022年(令和4年)12月11日(日)発行 ©菅平高原実験所

テン



図1：雪上を歩く冬毛のテンを、樹の枝に設置した赤外線センサーカメラで上方からとらえたところ。



図2：コンクリートの上の糞。左は動物を、右は果実を食べたもの。

哺乳類について調べたいとき、必ず読むのが安間茂樹著「アニマル・トラッキング」(晶文社)です。その本の「テン」のページでさえ、会うたびに新鮮な喜びを感じる。・・・中略・・・。そして、野生動物の中でも、テンはもつとも美しい動物の一つではないだろうか」とあります。まったく同感です。夏毛は褐色、頭と脚は黒味を帯び喉から胸にかけては黄色、そして、冬毛がとくに美しいのです。白色の顔、黒褐色の鼻先と脚先を除いて全身が黄色です(図1)。

普通、両前脚、両後脚を揃えて跳ねるような走り方をし、図3のようにシャクトリムシのような足跡が付きまします。菅平ではキツネやタヌキとともに多く棲息している肉食性哺乳類ですが、人前にはあまり姿を現しません。しかし、冬になるとこのような特徴的な足跡をたくさん目にするようになります。テンがたくさん生息していたのを知ることになります。とにかく、テンは活動的な動物です。図4は、早朝、動



図3：テンの足跡。

イベント情報

冬の自然観察会 「冬の生き物たちと大明神の滝」

- 日時 令和5年2月4日(土) 9時30分～12時
- 定員 20名(事前申込)
- 参加費 50円(保険代)
- 会場 菅平高原実験所
- 服装 防寒着上下、防寒靴(スノーシュー不可)、防寒帽子、手袋、雨具(防水性があれば防寒着と兼用可)、ストック(あれば)、マスク
- 事前に悪天候が予想される場合や、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては中止となります(中止の場合は前日連絡)。
- 10日前より検温等の健康観察をお願いします。
- 申し込み 1月23日(月)～27日(金)に、①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレスを明記のうえ、メールでお申し込みください。数名のグループでお申し込みの場合は、全員の氏名とご住所をご記載ください。

●ご参加の可否について数日以内にご返信します。また、参加される方には追って詳細をお知らせします。

問 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所
☎0268-74-2002(平日9～17時)
✉ikimono_srs@un.tsukuba.ac.jp



図4：ある朝の筆者の自宅庭のようす。

◀物の足跡がいったいどんな自宅の庭を写した写真です。足跡をよくみると、特徴的なシャクトリムシ型でテンの足跡ばかりだと分りますが、多数のテンのものではなく、恐らく一、二頭の個体ががむしやらに走ったあとと思われるのです。そして、他のイタチ科のものよりも頻りに樹などの高いところに登ります。図5は、屋根に登って走り回ったテンの足跡が残っている別荘です。恐らく別荘の右のシラカバを登って屋根に移って走り回り、そして飛び降りたのだと思います。図6は飛び降りたテンの跡です。胴体の凹みに前脚と後脚の跡があり、胴体の後にはくっきりと尻尾の跡。胴体の前にあるのが、テンの次の一歩の跡です。恐らく、飛び降りて、間髪を入れずに次の動きに入ったのでしょう。

テンはとても美しい動物であると同時に、非常に活動的。テンの足跡に出会ったら、足跡を少し追ってみませんか。きっと、なにか面白いことをしていますよ。



図5：菅平のとある別荘の屋根(下は拡大写真)。

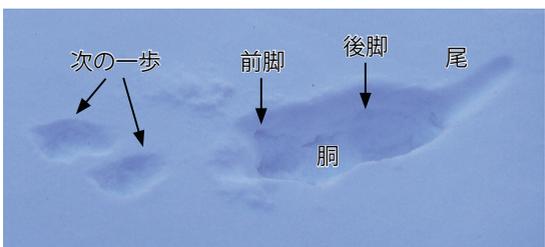


図6：飛び降りたテンの跡。

イトエダカビ 〜美しき寄生菌の不思議な生き様〜

筑波大学生物学学位プログラム
博士前期課程（2年）
前川 直人



図7：野外でのイトエダカビの様子。

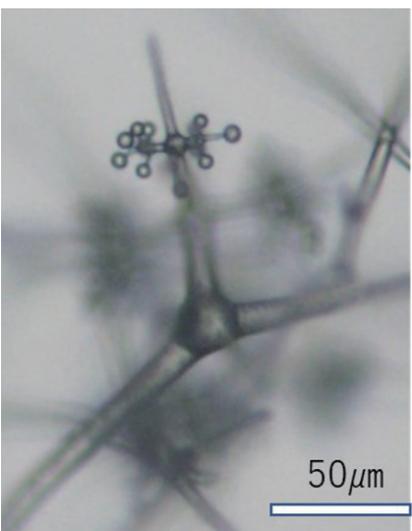


図8：イトエダカビの先端の拡大。

いよいよ寒さも増し、まもなく菅平もすっかり雪に閉ざされようとしている今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？ さて、皆様方はケカビという菌をご存じでしょうか？

その名の通り毛のような見た目の菌で、動物の糞から古い果物まで、栄養のあるものがあれば何からでも生えてきます。ケカビの仲間が多くが腐ったものから栄養を得るいわゆる腐生性なのですが、一部他の生きた菌に寄生する菌寄生性のものが存在します。

菌寄生のグループは大きく2つに分かれており、1つはきのこに寄生するもの、そしてもう1つは自分と同じケカビの仲間に寄生するものです。ケカビに寄生するケカビの仲間は現在3属5種が知られており、菅平ではそのうち2属3種が確認されています。今回はこの中でも特に美しい造形を持つ、イトエダカビについて紹介します。

ケカビの仲間とは思えないほど複雑で、ガラス細工のように繊細な美しさを持つ本菌の構造は、枝状の胞子嚢柄に胞子嚢が輪になって単生することできています。胞子嚢には細かい毛が生えており、これが本菌のキラキラとした輝きを生み出しています。

胞子嚢の中には1つの胞子嚢胞子が入っており、これが発芽し、菌糸が伸びていきます。本菌の菌糸が宿主となるケカビの胞子嚢柄にぶつかると、そこに瘤状の構造を作ります。これが本菌の寄生構造で、瘤から宿主の栄養を吸い取り本菌は成長していくのです。

宿主の胞子嚢柄に瘤状の寄生構造を作るといふのは、ケカビに寄生するケカビの仲間3属全てに見られる特徴です。系統的に異なる3属が、それぞれ同じような寄生構造を形成するというのは非常に興味深いことです。

本菌は好低温菌であり、寒い時期に落ちた果物の上のケカビによく寄生しています。皆様も落果を見た際にはこの美しい菌の不思議な生き様に思いをはせてみてはいかがでしょうか？



季節の便り
10月下旬から11月にかけて、当施設の草原では年一回の刈取り作業が行われました。

本通信の印刷・配布は

東郷堂様にご協力いただいております

次号は2月発行予定です